

1. 病院・医師の選択

癌と診断されたら

通常、担当医から、以下の説明を聞くことでしょう。

(癌の進行度によっては、本人ではなく家族だけの場合もあり)

1. 癌の状況（原発巣、進行度）と、治療方針、完治の見込み。
2. その治療による副作用の度合、通常の生活ができるかどうか。
3. 再発の危険性。

初期の「癌」で、根治手術が可能と診断されたら、ほとんどの人はその病院で手術を受けることでしょう。

でも、あせらずに、はたしてそれが最良の方法なのかをさぐることが大事です。

担当医師の、経験・技術により、簡単と思える手術でも、術後の経過が違ってくることがあります。

再発の危険性や、クオリティ・オブ・ライフを考慮して、後悔のない治療をうけるべきです。

セカンドオピニオン（最初に診察を受けた病院・医師とは別の、病院・医師の判断を仰ぐこと）という言葉が最近よく目や耳にすることと思います。

自分自身の身体であり、命にかかわることなので、医師・病院選びは慎重にしてください。

特に、乳がんや大腸癌（直腸癌）などでは、乳房や肛門を温存するかしらないかによって、その後の生活に大きな違いが生じます。

治療法の説明を医師からうけて、納得がいかなければ、必ず他の信頼できそう

な病院で判断を仰ぐべきです。

このとき、検査のデータや CT、MRI の画像等も用意してもらって、他の病院に相談に行ってください。

しかし、安易に最初の病院から紹介してもらうのは避けたほうが良いでしょう。医師が紹介するのは、自分となにかしらのつながりのある医師を紹介することが多いので、全く関係のない病院を探したほうが、別の視点からの判断が期待できます。

病院・医師選びのポイント

病院・医師を選ぶとき、まずその病気の治療経験がどれ位あるか、手術の件数が1年間でどれ位かということ調べてみるのが参考になります。

病院によっては、ホームページで病名別の治療件数が載せてあるところもありますが、わからない場合は、聞いてみるのもよいでしょう。

後で紹介する本には、全国の病院の病名別手術件数ランキングが載っていますので、是非ご参考にしてください。

医師については、まず患者の話をよく聞いてくれること、患者が納得するまで説明してくれることが、名医の条件といえます。

手術が不可能と言われたら

「癌」のできた場所や進行度により、手術が不可能、あるいは全部切除することが出来ないといわれる場合があります。

この場合は、セカンドオピニオンが特に重要になります。

例えば、通常は手術不可能と言われていた、**肝臓の尾状葉**にできた癌でも、**日本大学板橋病院の高山忠利医師**は、何例も手術で切除しています。

肝臓の尾状葉は、肝臓の中心部で血管が多く集まっているため、大量の出血があり手術不可能とされていました。

ところが、高山医師は、血管の1本1本を丁寧に結索して止血することにより、

輸血も不要なくらい、少量の出血で手術を可能にしました。

これは、1例ですが、どんな場合でもあきらめてはいけないということです。

さらに、全く手術不可能な場合でも、方法はありますので、絶対にあきらめてはいけません。

他に方法がないか？

治せる名医はいないか？

免疫療法？

代替療法？

あらゆる方法を探しましょう。

どんな病気にも言えることですが、病気を治すのは自分自身だということです。“病気に勝つ”という強い意思を持つことで、身体に備わった免疫力が高まり、病気を克服できるのです。

これは、免疫学の権威である、新潟大学大学院の安保徹教授をはじめ、人間の体にそなわった免疫力に注目して、最先端の癌治療を行っている多くの医師達が口を同じくして言っています。

「癌」治療の第一歩は、まずその病気について自分自身で、その「癌」の状態、治療法、完治の可能性を知ることが大事です。そして、自分が納得できる治療をしてくれる、信頼できる医師・病院を見つけることです。

それでは、まず名医・病院を探すために役立つサイトをご紹介します。ここで、注意したいのは、はじめに述べたように、日本の医学界は、まだ「癌」の治療法の標準療法といわれる「手術」「放射線」「抗癌剤」偏重の治療を行っていることです。

その傾向は、日本を代表するがん研究施設である国立がんセンターや、がん研、国立病院、大学病院に見られるようです。

手術はもちろん熟練した医師にしてもらうのが一番なので、その点ではこうい

IMRT（強度変調放射線治療）

「癌」細胞に打撃をあたえるためには、かなりの強度の放射線を照射しなければならず、周辺組織に深刻な副作用が生じます。

それをコンピュータで制御して、病変部に放射線を集中的に照射し、副作用を極力おさえる技術です。

現在は、厚生労働省の先進医療として健康保険治療と併用が認められていますが、この部分に関しては自費診療となり86万1千円かかります。

但し、2008年4月より頭頸部、前立腺、中枢神経系については、健康保険が適用されるようになりました。

ここで、どんな名医をもってしても手術不可能な「癌」でも消滅させる最新の放射線治療機器をご紹介します。

サイバーナイフⅡ（サイバーナイフのバージョンアップ版）と呼ばれる定位放射線治療装置です。

この装置は巡航ミサイルの追尾システム（DSMAC）が応用され、病変が動いても追尾することができる装置と多方向から照射できるロボットアームにより、放射線を病巣に正確に照射することが可能です。

従って、病変周囲の正常な組織への影響を極力減らし、必要な部分にエネルギーを集約することで、より効果的な治療を行うことができます。

しかし、放射線治療の1種なので、少ないとはいえ放射線の副作用も弱冠認められるようです。

このサイバーナイフでの治療は、日本国内では法律（薬事法、放射線障害防止法）により、頭部～頭頸部（首）までに制限されていましたが、2008年8月より首から下に対する体幹部治療が行えることになりました。

しかし、まだ準備中で実際に体幹部に対する治療を行っている病院は現在のところないと思われます。

サイバーナイフⅡが設置されている病院

医療法人社団三翔会 おか脳神経外科 東京サイバーナイフセンター
〒194-0034 東京都町田市根岸町 27-1 TEL 042-798-7337 (代表)
サイバーナイフセンター直通： 042-798-7556
<http://www.oka-nsc.com/index.html>

関東脳神経外科病院
〒360-0804 埼玉県熊谷市代 1120 TEL 048-521-3133
<http://www.kantounouge.com/>

新緑会脳神経外科 横浜サイバーナイフセンター
〒241-0014 横浜市旭区市沢町 574-1 TEL：045-355-3600 (代表)
サイバーナイフセンター直通： 045-555-7333
<http://wakaba.or.jp/cyberknife/index.html>

津島市民病院
〒496-8537 愛知県津島市橘町 3 丁目 7 3 番地 TEL：0567-28-5151
サイバーナイフの受付は地域医療連携室：(内線) 2112
<http://www.tsushimacity-hp.jp/index.html>

蘇生会クリニック 蘇生会サイバーナイフセンター
〒612-8248 京都市伏見区下鳥羽上三栖町 126 番地 TEL：075-621-0026
<http://www.soseikai.or.jp/knife/about.html>

大阪大学医学部附属病院
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15 TEL 06-6879-5080
<http://www.radonc.med.osaka-u.ac.jp/>

新生病院 「大阪北摂サイバーナイフセンター」
〒569-0856 大阪府高槻市玉川新町 8 番 1 号 TEL 072-677-1367
<http://www16.ocn.ne.jp/~shinhp/>
E-mail cyberknife@shinsei-hsp.jp

岡山旭東病院
〒703-8265 岡山県岡山市倉田 567-1 TEL 086-276-3231
<http://www.kyokuto.or.jp/www/center/cyber/index.htm>